

会 議 録

会議の名称	第5回行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画検討委員会
開催日時	平成26年2月25日(火) 開会：午後1時30分 閉会：午後2時50分
開催場所	行田市産業文化会館2階 2A会議室
出席者(委員) 氏名	田尻要 桑田仁 佐野友昭 宮本伸子 沖本孝之 並木政夫 富岡誠 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員) 氏名	横田康介 朽木宏 (敬称略)
事務局・担当課	【都市整備部】小林部長 【文化財保護課】中島課長 【企画政策課】田島主任 【都市計画課】栗原課長 加藤主幹 金子主査 金古主任
会議内容	議 事 計画書全体の検討
会議資料	(資料名・概要等) <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画(案) ・ 各課意見対応結果 ・ 市民意見募集(パブリックコメント)実施結果対応表 ・ 市民意見交換会実施結果対応表
その他必要事項	傍聴人4名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
<p>宮本委員</p>	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>・ 田尻委員長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>計画書全体の検討</p> <p>■ 資料を用いて事務局より説明</p> <p>審議</p> <p>・ 今回の計画書の中で市民の方が一番目にするのはフォトモンタージュの写真だと思うが、実際、本当にこうなるのか疑問ではある。その中で気になる点が2、3あり、一つ目はつい最近撮影した写真と推察されるが、雪が写り込んでいることから、可能であれば雪が無い時期に取り直した方が良いのではないか。それと現状やフォトモンタージュの写真を含めて、のぼり旗が何箇所か写っているが、のぼりはある意味ではにぎわいを表出する仕掛けであり、捨て看板も含めて仕掛けであると言えるが、上手に扱わないと雑然として景観を損ねることとなり、必ずしもプラスに働き得るものではない。例えば p 79 の真っ赤なのぼりはいかかなものか。それから p 77 には様々な色ののぼりや捨て看板が入れ込まれているが、折角の計画書なので、その点にもっと気を遣っていただきたい。また p 81 の桜の色は、p 80 のソメイヨシノのような、もう少し淡い色の方が綺麗だと思う。より具体的になっているからこそ、もう一息、気を遣っていただきたい。さらに加えると、p 87 はごみの集積所を花壇として変えているが、ごみの集積所は生活の場面として必要なものであり、できればごみ集積所は残したまま、デザインを変えるなどした方が良くと思う。</p>
<p>事務局（金子）</p>	<p>・ p 83 も現況写真にも見られるが、撮影の時期が遅かったこともあり雪が残ってしまっている。宮本委員からの指摘を踏まえ、新しい現況写真に付け替えさせていただく。また、桜の色合いは、確かにソメイヨシノには見えず、むしろハナミズキに見え</p>

<p>田尻委員長</p>	<p>てしまう部分もある。またのぼりの色についても、景観をつくる上では赤い色は目立ち突出してしまう部分もあるので、のぼりはシックな色でイメージ写真を修正させていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のぼり旗自体は営業をしていることのマークにもなるので、宮本委員の意見にもあったとおり、全体の景観の中での位置付けとして考え、検討していかなくてはならない。
<p>桑田副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 1 0 1 のネットワーク組織の体制イメージ図で、「協議」という行為と「市民組織」という組織を同じような色・形で描いているのでわかりにくい。「協議」はアクションであるので、「市民組織」という組織体とは色を変えるなどした方が良いのではないか。
<p>事務局（金古） 沖本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指摘のとおり修正させていただく。 ・ p 8、9にある図は、最終的には行田市都市計画マスタープランの「例示」として見せているのか、もしくはここで「完結したもの」として見せるかにもよるが、もしここで「完結したもの」として見せるのであれば、読めないような小さな文字は何とかしてほしい。例えば、p 8の利根川の南にある「見沼元塚公園」は不鮮明であり、小さくても良いので読めるようにしてほしい。また凡例においても元図をどうこう言うことではないが、上の紫の破線で囲まれたグラデーションと、下の拠点の紫のグラデーションは同じ紫色だが、別物なのかがよくわからない。また、p 8は飛び地を行政区で囲っており、p 9も同様に囲った方が良いのではないか。また、p 1 3の上から3行目「行田らしい町づくり」の「町」だけ漢字となっているが、これは固有名詞として用いているのか。他の箇所は、平仮名を用いているので、どちらかに合わせた方が良いのではないか。それと下図の凡例が見えないことが気になる。また、「足袋蔵を活かしたまちづくりの推進」の「3 アクセス環境の整備」のアクセス環境とは何か、言葉としての意味がよくわからない。また、アクセスの後に※のマークが付いているが、この※が何を指すのか、冒頭で※の意味を先に触れて、用語解説で説明するようにしないとわからないと思う。また、p 1 4「(2) 中世の歴史」の「天生18年」

	<p>とあるが、正しくは「天正」である。同じ段落の最後に「中心市街地の祖形」とあるが、「祖形（祖型）」は「慣例の模範、行動の規範」という意味合いなので、ここで祖形と使うのは疑問であり、「原型」で揃えた方が良いのではないかと。また、p 16 (3)「観光客の状況」についてだが、(1)、(2)には分析があるものの(3)には分析がないので、記載した方が良いのではないかと。また、p 20 (2)「○田園」の中の「愉しめます」は、こだわりがあるのならば良いが、当該文字は常用漢字外である。また、最後は「でき」となっているが「できる」である。また、「○利根川」では、「県南部や東京都へ上水道を供給する利根大堰は、人々の生活に重要な役割を担っています。」とあるが、ここには行田の人々は含まれるのか。行田市は県南部にも位置しないが、県南部と言い切って良いのか。利根大堰では、東京都の上水道の40%、埼玉県の上水道の70%を供給しており、供給エリアには当然行田市も含まれていることから、県南部ではなく、「埼玉県」で良いのではないかと、という感想を持っている。また、p 22の「○住宅地」には「古くからの住宅と新たな住宅が混在した」とあるが、個人的には「混在」はマイナスイメージがあり、どちらかという「共存」を用いた方が良いと思う。</p>
事務局（金古）	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として内容については再度、精査させていただく。
事務局（金子）	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、印刷製本は3月10日前後を予定しているが、誤字脱字や考え方について、他にもご指摘等があれば対応させていただく。
田尻委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地図中の凡例が小さく見づらいので、出来る範囲で大きくしていただきたい。
桑田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・取組みのなかで「エリアマネジメント」という言葉があるが、市民の方にとっては聞き慣れない用語であると思うので、文中に説明があるのかもしれないが、用語解説で触れても良いのではないかと。
事務局（金子）	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、計画素案については内容の確認を行うが、文言・用語解説等、市民にわかりやすい体裁に整えていきたい。
田尻委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに我々にとっては日頃から馴染みのある言葉だが、市民の方にはわからないのかもしれないので、十分気を付けていきたい。
並木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・p 115の将来イメージ図は一枚でわかりやすいのだが、商店を化

<p>事務局（金子）</p>	<p>粧している3枚の写真を見ると、あまり代わり映えしないように見える。この地域では歴史的建築物が集積しており、足袋蔵等の活用が目玉でもあるので、そのような写真を載せた方が市民の方もイメージしやすいのではないかと。同様にp76以降のイメージ図においても貴重な資源である足袋蔵が出てきておらず、今年度に足袋蔵の改修・活用事業を実施していることから、足袋蔵を表した写真を用いたほうが市民の方もイメージしやすいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p115については、フォトモンタージュに掲載させていただいた写真を現状では位置付けさせていただいた。また、既にふるさとづくり事業でまち並みを改修している具体的事例等についてもクローズアップする形で写真等を追加していきたい。また、行田市駅などの地域資源の写真も落とし込み、まちづくりの方向性を示していきたい。また、計画素案は相当のボリュームがあることから、計画書に併せて、全8ページの見開き構成の概要版を作成する予定である。そこでは見開きのページに全体イメージを配置し、フォトモンタージュ図によってまちの変わり方を見せていく予定であり、内容についても並木委員の指摘のとおり、更なる充実に努めていきたい。
<p>沖本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ p59とp75のそれぞれの図に取り込まれている情報のボリュームからすると、多少大きさが小さくなるかもしれないが、図を現在の横向きではなく縦向きに変更しても、さほど支障はないような気がする。またp59は色付けをここまで濃くする必要があるのか。下のイメージが浮かんで来ないため、せめてp75程度のトーンに落として下が見えるようにすれば良いのではないかと。また、オリエンテーション（方位）も動線の凡例の中に組み込まれていて、据わりが悪い点が気になった。また、p60には「界わい」と「まちかど」の用語説明があるが、これらは巻末の用語解説に統合はできないのか。それとp61「方針3」の※1と「方針4」の※2の出典がないため、修正願いたい。また、p49には図1、p60には図3とあるが、間に図2がない。それと、p72の深谷ベースの写真は、隣の佐賀市の写真と比較するといかにも寂しいので、産業祭の

事務局（金古）	<p>写真などがあればその写真を用いることはできないか。あと p 7 7</p> <p>【段階①】の市民の取組みに移動図書館を入れても良いのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p 5 9 においては下の地域図が見えるよう色付けを薄くさせていただき、図の向きについても縦方向で修正させていただく。また、p 6 0 の用語説明についても、巻末の用語解説に統合させていただく。また、図 3 においても策定の過程で図 2 を削除した経緯があり、図 3 の表記のまま残してしまっていたことから、再度内容を精査し修正していきたい。p 7 2 の深谷ベースの写真においても、再度深谷市商工振興課ににぎわいを感じる事ができる写真の提供を依頼し、ふさわしい写真を掲載していきたい。
事務局（中島）	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 7 7 の移動図書館は行政がやるべきではないか、との意見もわかるが、例えば船橋市のららぽーとでは、市民団体やNPO団体が移動図書館を開設し、また谷根千でもこども図書館を地域の方が開設するなど、市民レベルでの活動による移動図書館があることもご了解いただきたい。
宮本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 6 0、6 1 の見開きページで使用している※は、用語解説の意味の※ではなく、出典の意味の※だと思うので、混同を避ける意味でも記号を変えた方が良いのではないかと。また、この見開きページ内では全て※1からとなっており、紛らわしいので整理をした方が良い。それと、p 1 1 5 においてはまち並みづくりとにぎわいづくりをハードとソフトを分け、ソフトをセピア色としていると思われるが、私にはにぎわいに見えない。強いて言えば写真の数を減らし、楽しそうな祭りの写真や子どもたちが集まっている、イメージアップできそうな写真をもう少し大きく載せるだとか、もしくはセピア色ではなく、ハードの写真と同じように色の付いている写真にするなど工夫ができないか。
事務局（金子）	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 1 1 5 の図面については、まち並みとにぎわいなどの人の動きがわかるような写真を掲載させていただいた。宮本委員からの指摘を踏まえ、バランスの良い形で将来イメージ図を作成し、より良い計画書にしていきたい。
沖本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 4 に「第5次行田市総合振興計画」に※があり、用語解説で探す

<p>事務局（金子）</p>	<p>と「総合振興計画」で掲載されており、どの文字で探せば良いのかよくわからない。また、ア行になぜNPOが入っているのかもわからない。そういう意味からも、ページ順として、前から読んで出てくる順番に用語解説を入れれば分ける手間も省けるのではないか。</p> <p>また、折角写真を加工しているのであれば、人を挿入してにぎわいのイメージを創出してみてもどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語解説については、これまで行田市で作成している計画、例えば第5次行田市総合振興計画や行田市都市計画マスタープランにおいては、50音順で整理させていただいており、他の計画との整合も非常に重要な要素であることから、現行のまま50音順で整理させていただきたい。ただし、先程指摘のあった第5次から引けないという箇所は今後、文言が簡単に引くことができる形で整理させていただく。また、フォトモンタージュ写真に人物を挿入するなど活動の様子がわかるようにした方が良いのでは、との意見であるが、本計画はまち並みづくりだけでなく、にぎわい創出が大前提の計画であることから、人の動きをここで示せるよう、対応させていただく。
<p>富岡委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・p115の将来イメージの中に、行田でできる体験型・参加型イベントの写真を入れるだとか、高齢者や子どもなど若者の笑顔の写真を加え、楽しく生活できるイメージがここで読み取れる内容にすれば良いのではないか。また、モデル地区ということで行田の中心地ということもあるとは思いますが、玄関口としてJR行田駅もあることから、JRからのアクセス・つながりを当該ページに記載することは難しいかもしれないが、将来的なつながりを含めて、イメージできるようにしていただきたい。
<p>事務局（金子）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の動きや活動によるまちづくりを行う中で、若者や子育てをしている女性の参加が非常に重要であり、本計画を実現する上で、よりわかりやすい形で見せるのが一つの手段でもあることから、そのような写真を掲載するよう対応させていただきたい。また、JR行田駅からのアクセスということで、p115はモデル地区のイメージとして掲載させていただいているが、当然行田市駅、行田駅、吹上

	<p>駅からの軸を使いモデル地区に訪れる方、あるいは古代蓮の里やさきたま古墳に立ち寄った後、中心市街地に入ってくる方など、地域資源間の連携も必要となることから、計画全体でそのような整理をさせていただいている。また、都市計画マスタープランにおいては中心市街地とJR行田駅周辺を都市拠点として位置付けていることから、JR行田駅については、今年度は内部で検討委員会を立ち上げ、検討を始めたところである。まち並みあるいはにぎわいをつくりながら、両者が連携し、他の地域資源とのつながりを重視しながら計画づくりを進めていきたい。地域の人から始まるのも当然だが、そこにどのように入れ込んでいくのかも重要であるので、視点を広く捉えながら計画の実現に尽力していきたい。</p>
<p>桑田副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 1 0 8 においては、景観法の活用を念頭に置いていると思うが、一般的な実績で言うと、景観に配慮するときには、景観条例の技術的なものを加え、地区計画や建築協定も含まれると思う。景観計画や景観法関連に特化しているように思えるので、地区計画や建築協定を含めて一番良いものをチョイスするのが実際には一番良いと思う。
<p>田尻委員長 事務局（金古）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに景観が全面的に出ている感じがする。 ・ 景観法がメインと読めてしまうことから、地区計画や建築協定も視野に入れた文言へと整理させていただく。
<p>事務局（金子）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観条例ということで代表的な事例を整理させていただいた。地区計画においては、垣柵の高さなどの制限があり、また景観協定・建築協定など景観に関する制度等もあり、条例など市域全域に適用されるものだけでなく、地域としてのルールという視点も含めて、再度確認作業を進めさせていただきたい。
<p>佐野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 1 1 3 の P D C A についてだが、市民と行政が協働して評価・検証していくとあるが、p 1 0 4 ではエリアマネジメント組織について記載があり、エリアマネジメント組織も P D C A に加わるのであれば図に入れたほうが良いのではないかと。また、計画の検証に「進捗評価・検証」とあるが計画のスケジューリングの根拠などがあれば教えていただきたい。

<p>事務局（金子）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアマネジメント組織については、p 1 1 3 に反映させていただきたい。また、検証年度については年次を指定した書き方に見えてしまうかもしれないが、p 1 0 9 等のスケジュールにおいて、最初の3カ年は年度ごとに整理させていただいており、その途中の段階で一度、進捗の評価・検証をさせていただき、5年後に再度評価させていただく考えである。また、p 1 1 3 の計画の検証の図だと、行政と市民で分かれているような見せ方となっているが、評価等を行う際は、上のPDCAサイクルの中では行政と市民がともに行っていく図となっていることから、行政と市民がともに評価し、次のアクション（改善）につなげて、新たなプランニングをしていく形になる。こちらの検証の年次等については当初の2カ年、平成27年度から平成28年度にかけて一度、評価・検証をしていきたい。なお、適宜評価を進めていく中では5カ年での検証も考えているが、事業にあたってはその都度、評価をしなくてはならないこともあることから、来年度以降も市民の皆様とワークショップや意見交換を重ね、まち並みやにぎわいづくりについて考えていきたい。
<p>佐野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・p 7 7 の商工センターの空きスペースの写真についてだが、個人的な意見だが、ここにカフェのイメージ写真を載せたところで、人がどの程度来るものなのか、と危惧している。商工センターの地下1階は現在「ぶらっとぎょうだ」となっているが、ぶらっとぎょうだには平日には市民の方がほとんど見えていないことから、写真の見せ方も工夫した方が良いのではないかと。
<p>事務局（金子）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・p 7 7 の写真については、ワークショップ等でもぶらっとぎょうだが見づらいという指摘をいただいた。将来的にはオープンスペースにしてぶらっとぎょうだと一体となって、オープンスペースとして活用し、カフェなどでゆっくりくつろいでいただく、といった形で整理させていただいた。ぶらっとぎょうだをもっと活用していただくために、オープンスペースと一体に相乗効果を発揮できるような図面に見えるよう整理させていただきたい。
<p>田尻委員長</p>	<p>採決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他に意見がなければ、ただいまの意見を踏まえて内容を修正さ

せていただくが、今回が最終回となるため、修正内容については、私と事務局に一任するという事に異議はないか。

(全員が異議なし)

- ・ それでは、本計画案については原案に一部修正を加えたものを承認することとする。

審議終了

4 その他

- ・ 事務局より策定に係る今後の予定について事務連絡

5 閉 会